

# 教科主任会と教科会～成果につながる会にするために～



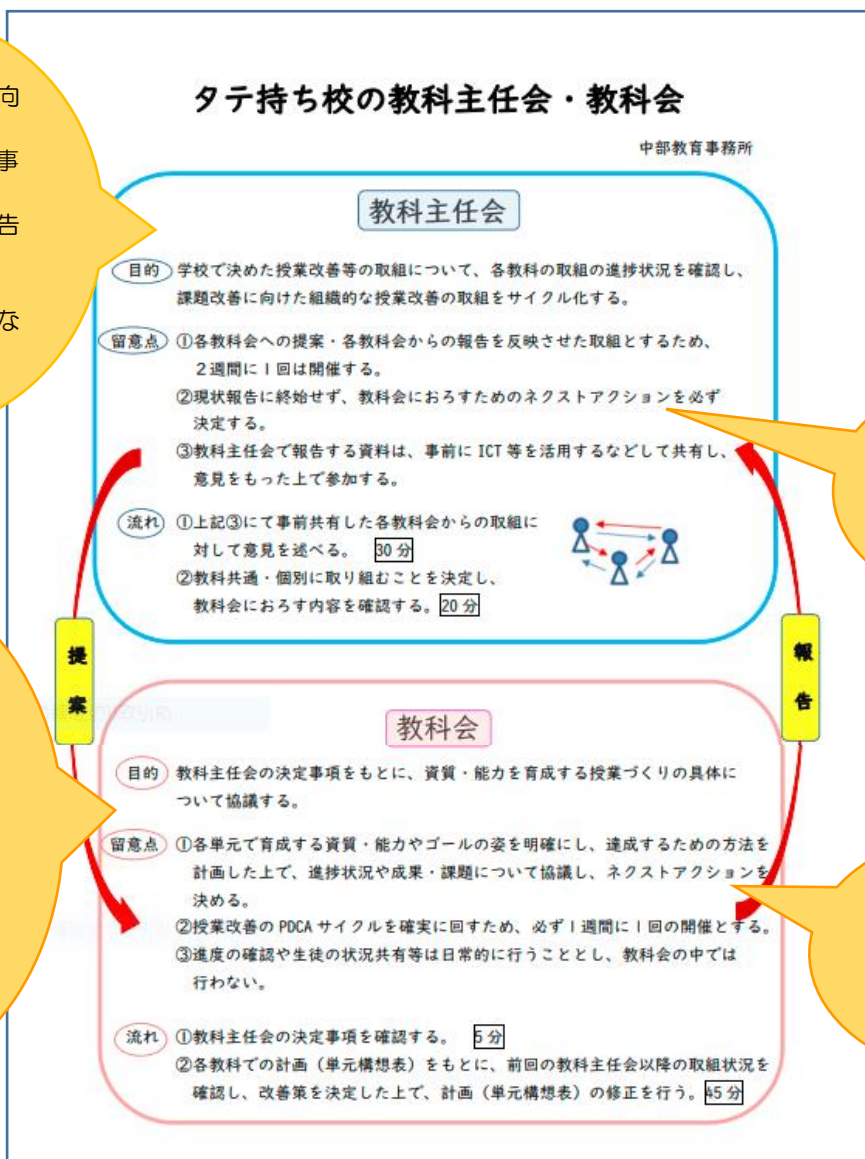
教務主任が苦勞して週時程の中に割り当てた教科主任会や教科会が、教員の授業改善につながるものになっていませんか？特に学校における学力上の課題が数年にわたって続いている場合は、これらの会がうまく機能していないことが考えられ、教員の中にも会の有効性を十分感じていない方がいるかもしれません。

下の図を参考に、もう一度それぞれの会の役割や内容、役割分担等を考え直し、必要性和成果を実感できる会にしていきましょう。

- 学校の授業改善の方向性を決める。
  - ICT を活用したり、事前に共有をしたりして、教科会からの報告は短時間で端的に行う。
- ※出し合い話の場としない工夫をする。

「簡易版単元構想表(注1)」と「児童・生徒の振り返り」等の具体物を持ち寄り、授業改善について協議する。

- ①ここまでの授業について
- ②これからの授業について(次時、次単元、次年度)



教科会に提案するために教科共通で取り組むネクストアクションを決める。

教科主任会からの提案について教科として取組を決め、教科主任会へ報告する。



この様式は、中部教育事務所のHPに掲載しており、ダウンロードして加工できるようにしております。学力向上・授業改善に係る会の役割を再度確認してみることは、タテ持ちの中学校だけでなく、教科間連携の中学校や小学校においても必要なことです。

各校種、学校の実情に応じて、教科主任会→チーム長会、教科会→チーム会に書きなおすとともに、内容にも必要事項を加えるなどして、工夫してお使いください。

【注1】：授業改善を組織的、意図的、計画的に行うために必要と考えられるもので、中部教育事務所HPに掲載。

